

「平成30年度 市町村生涯スポーツ指導者等研修会（第1回）」事業報告

- 1 事業名 平成30年度 市町村生涯スポーツ指導者等研修会（第1回）
- 2 期 日 平成30年6月26日（火）
- 3 参加者 18名
- 4 日 程

時 程	内 容
13:30	受 付
13:50	開会行事
14:00	研修1〈講話〉 「生涯スポーツの在り方と地域スポーツ推進関係者の役割」 福岡市立障がい者スポーツセンター 館長 小手川 郁人 氏
14:40	更 衣
14:50	研修2〈説明・実技〉 「誰でも親しめるスポーツの実践」 ～卓球バレー・フライングディスクにチャレンジしよう！～ 福岡市立障がい者スポーツセンター 館長 小手川 郁人 氏
16:30	
16:40	閉会行事

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、福岡市立障がい者スポーツセンター館長である小手川郁人氏から、「生涯スポーツの在り方と地域スポーツ推進関係者の役割」という演題で、障がい者スポーツにおける経験を踏まえて、資料や動画を使って講話を実施しました。小手川氏からは、「誰でも楽しくスポーツを実践していくためには、一人ひとりの状況に応じて、スポーツに参加できるようにするための工夫が必要である」という説明がありました。また、障がいのある方もスポーツを楽しむことができる道具の紹介も行いました。

(2) 活動写真



参加者に講話を行う講師



野球で使用する道具の紹介をする講師

(3) 参加者の声

- 「スポーツができない、できなければできるよう工夫する。何事もあきらめないこと。」という講師の一言が印象に残りました。
- 障がいのある方と接する機会はあまりないのですが、高齢の方にも同じような気持ちで、スポーツを楽しんでもらえるようにしたいなと思いました。
- 筑豊地区においても、障がい者スポーツの場が増えており、非常に参考にできる内容でした。

研修2

(1) 内容

研修2では、「誰でも親しめるスポーツの実践」という演題で、説明・実技を行いました。まず、フライングディスクを行いました。参加者は、講師からディスクを遠くに投げる方法や、的に向かって正確に投げる方法などを学びました。次に、卓球バレーを行いました。参加者は、6人1チームになって対戦する中で、ルールや楽しみ方などを学びました。

(2) 活動写真



ディスクを遠くまで投げる参加者の様子



卓球バレーを楽しむ参加者の様子

(3) 参加者の声

- フライングディスクも卓球バレーも、子どもから高齢者、障がいのある方まで、どんな人でも楽しめるものであると思いました。
- スポーツ競技自体の楽しさももちろんですが、ゲームの進行役の声かけが、とても重要であると思います。盛り上げ方が大切であると感じました。
- とても楽しく簡単な実技でしたので、子どもたちにも教えたいと思いました。

6 全体をととして

今回の研修会の目的は、幅広い年齢層や様々なニーズに応じた生涯スポーツについての知識や技能を身につけ、地域スポーツの振興を推進する指導者としての資質の向上を図ることでした。参加者からは、「工夫次第で、方法はいろいろあることを学びました。」「誰でもスポーツができるような工夫を常に考えながら、事業を構築したいです。」などの感想があり、地域スポーツの指導者として、誰もがスポーツに親しむ工夫をしていく必要性について学ぶことができた研修会となりました。